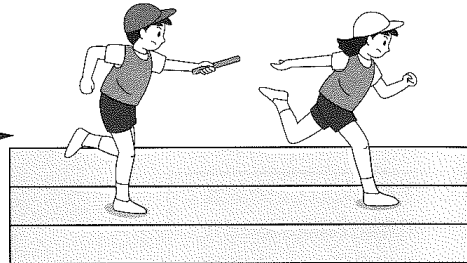


**Q29 リレーのバトンパスは右手か左手か。どちらで指導されているのでしょうか。**

**A どちらでもよいですが、校内で統一して指導をしましょう。**

コース内で渡し手と受け手がぶつからないようにするために、受け手はバトンを必ず渡し手と反対の手でもらう。  
(左手から右手など)



「受け手と渡し手の交錯がないよう、受け手は渡し手の反対の手で受け取る」とはありますが、「(左手から右手など)」と、それ以上は決まっていないようです。  
「はまっこたいいく (高学年編)」P108より

## 1 よりよいバトンパス指導のためには

①持ちかえない    ②右でもらって左で渡す    ③左でもらって右で渡す

### ①持ちかえない

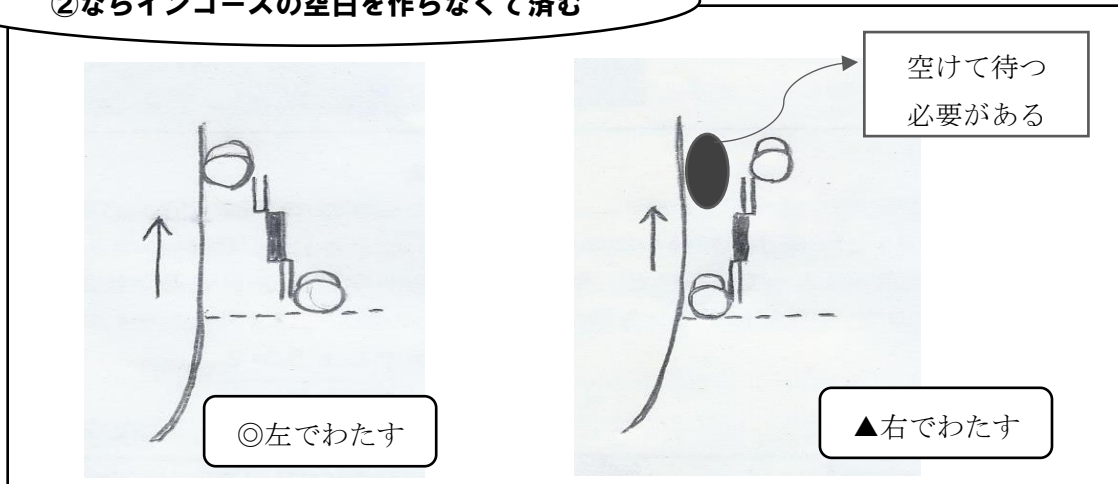
日本代表が4×100mリレーで銀メダルに輝いた2016年リオデジャネイロオリンピック。ジャマイカやアメリカ、カナダなどは100m決勝メンバーを擁するチームなのに対し日本は決勝メンバー0人。そんな中でも日本の躍進の鍵になったのがバトンパスでした。この時のバトンは1走から「右→左→右→左」と持ちかえなしです。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>・バトンを落とすリスクが下がる。</li> <li>・持ちかえるタイムロスがない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一度決めて練習を始めると簡単には変えられない。(欠席の子がいるなどすると・・・)</li> </ul>

### ②右でもらって左で渡す・③左でもらって右で渡す

おそらく市体育大会のようにオーダーやコースが決まっているものでもない限り、普段の授業や運動会などでは「持ちかえる」ことが多いのではないのでしょうか？持ちかえるメリットとしては、全員同じ動きをするので全体指導や子ども同士の見合いがしやすい、さらにチーム作戦や欠席者による走順変更にもなんら問題なく対応できるところです。

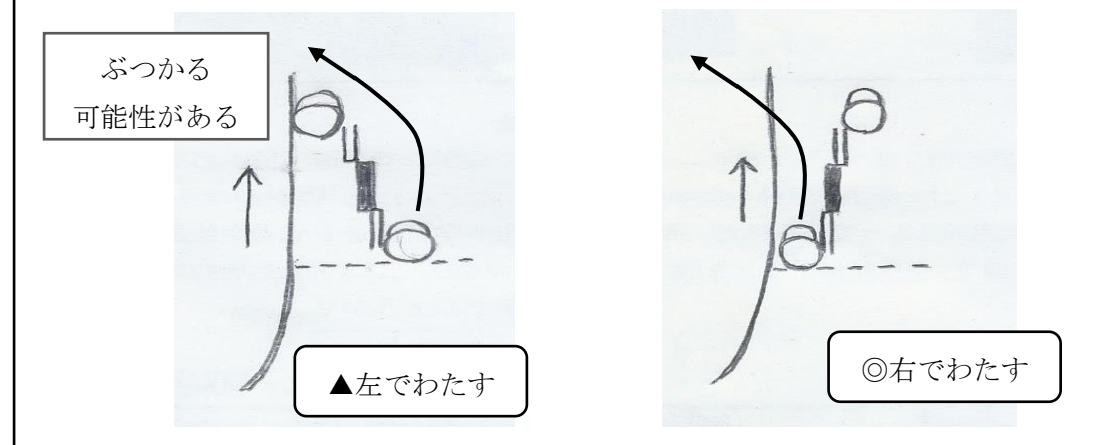
②ならインコースの空白を作らなくて済む



③なら前走者が勢い余ってもけがしにくい

※授業を考えた時オープンコース

かつバトンパス後インコースに抜けるという指導がある場合。



2 学校で統一しましょう

いずれにしても学校で共通理解が必要です。

「学年が上がったとき」や「運動会のリレーの選手で指導した」と学級で指導したことが違う」など、子どもたちが学習によって得た技能が高まっているほど、その感覚の変更は苦勞します。

ぜひ、運動会の際などよい機会ですので、全職員にバトンを渡す手について学校統一見解を発信してみたいかがでしょうか？

月		日	曜日	時間	内容	備考
5	10	日		7:40~8:15	選手・補欠全員(体育館)	練習内容(主に1・2・3年)
5	13	月			1・2・3年	バトンを若手でわたす・若手でもらう。
5	14	火			4・5・6年	
5	15	水			4・5・6年	
5	16	木			1・2・3年	カーブの走り方の練習 (セパレートのコースをチームの数だけ用意して走る)
5	20	月			1・2・3年	